

収益面厳しく、足踏み状態が続く

業界 WEATHER

全体 8月



前年同月比

概況

製造業は、受注量に業種間でバラツキが窺えるが、全体的に燃料や原材料高が足かせとなり、収益は厳しい。非製造業も、季節需要の盛り上がりが見受けられず売上は低調。全体に収益面厳しく、足踏み状態が続く。

製造業	食料品		小麦粉は、麺・パン向けともに需要が低調。製麺は、燃料や原材料価格の上昇分を製品価格に転嫁できず苦慮。漬物は、ラッキョウやキムチなど海外からの輸入品が増えていることもあり売上への影響も。
	繊維・織物製品		桐生は、浴衣や祭り関連が苦戦、服地は国内・輸出向けともに低調。繊維製品は、秋物の受注が伸びず全体に売上は低迷、加工単価も低く厳しい業況。ニットは、秋物の受注状況が非常に悪く、売上は減少。
	窯業・土石製品		生コン出荷量は、八ツ場ダムや北関東道など公共工事の受注による回復も見られ、全体では増加基調が続く。コンクリートブロックは、受注が概ね前年並み。コンクリート製品は、公共工事受注の減少で売上減。
	機械・金属		受注量は安定しており、総じて売上も堅調に推移。原油高に伴う燃料価格の高騰に加え、銅やニッケルなど特に非鉄金属が急騰しており、価格上昇分を加工賃や製品価格に転嫁できず、全体に収益状況は厳しい。
	その他の製造業		原木市場は、需要が堅調で品薄状態が続き、高値で推移し売上増。段ボールは、材料価格上昇で取引先に値上げ交渉をするも難航。印刷は、官公庁関連は予想以上に受注が厳しく、民需でもチラシ関連以外は低調。
非製造業	卸売業		全体に売上は低調に推移。原油高に伴い輸送コストや資材等の仕入価格上昇が収益を圧迫、業況に厳しさが増している。生鮮野菜・果実は、天候不順等による生育への影響もあり、高値安定での取引が続く。
	小売業		家電は、天候不順で落ち込んでいたエアコンなど季節商品の盛り返しもあり売上は前年並み。石油は、原油高に伴う販売価格の上昇分が売上増に。商店街は、イベント開催時以外は来街者が少なく、全般に苦戦。
	サービス業		温泉旅館の宿泊需要は、前半は低調であったが、お盆明け以降盛り返し前年並み。不動産は、取引は相変わらず低調で、価格・件数ともに前年並み。ビルメンテナンスは、スポット受注も増え受注量に増加気配も。
	建設業		総合工事業は、受注が低調。設備工事関連では、官公需受注が激減。塗装工事業は、売上は前年並みだが、材料価格の上昇が収益を圧迫。鐵構業は、一部に大型物件の受注も見受けられるが、全体に売上は前年並み。
	運輸業		お盆休み前には繁忙感も見られたが、全体的に荷動きは低調に推移した。原油高に伴う燃料価格の上昇分を運賃に転嫁できず収益面で苦戦が続く。特に、長距離輸送では採算が厳しく、全体に業況は悪化傾向。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 91.0(前月比0.6%)「県統計課・7月」
- 販売電力量 140,923万KW/H(前年同月比98.8%)「東電群馬支店・7月」
- 住宅着工戸数 1,555戸(前年同月比93.6%)「県建築住宅課・7月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.75倍・有効1.39倍「群馬労働局・7月」
- 大型小売店販売額 247億円(前年同月比100.0%)「経済産業省・7月」
- 消費者物価指数 99.1(前年同月比2.0)「県統計課・7月」
(鉱工業生産指数・消費者物価指数は12年=100とした指数)